

インターバンクの声（2017年2月22日）

東京市場の昼過ぎに 113 円 70 銭台までドル買い・円売りが進んだ円相場は、その後、欧州勢が参入する前に調整が入ったものの、ロンドン市場では再び 113 円 70 銭台に戻し、ニューヨーク市場でもドルの堅調さが続きそうだった。

アジア時間から米長期金利が上昇していたことに加え、フィラデルフィア連銀のハーカー総裁が 3 月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) で利上げが議題になるとの見通しを示したことで利上げ観測が強まったこともドル買いを後押ししていた。

ただ、足元の局面でドルが大きく上昇する材料は少なく、むしろもう一段のドル売り調整が入る可能性が高いと見る市場参加者が少なくないのも事実だ。

そうしたドル高・ドル安の相場観が混在する中、ポジションがややドルの買い持ちに傾いていたタイミングで発表されたのが、米 2 月のマークイット製造業 PMI とサービス業 PMI だった。いずれも市場予想よりも低調な結果で、普段はあまり反応することがない指標がドル売りの恰好の材料にされてしまった。

こうなると今夜遅くに発表される 1 月 31 日～2 月 1 日に開催された米 FOMC の議事要旨もしっかり見ないといけない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。